

縁があったこの地域で
お店も子育ても
楽しんでいきます!



kokoro 食堂オーナー

おざき あき
尾崎 亜紀さん

from 千葉 → to 紀宝町

子どものころに思い描いた暮らしを求めて

東京で生まれ、小学生から千葉県で暮らして、20代の半ばまで関東で働いていました。そもそも田舎に行きたいって気持ちになったのは、幼稚園のときですね。そのころは、遊ぶ場所が住んでいた団地の広場ぐらいしかなくて、近くに緑もほとんどなく、たまに親が連れていってくれる海がすごくうれしくて、いつか自然が多い場所で住みたいって思うようになったんです。でも大人になったら、いつの間にかそういう気持ちを忘れて働いていたんですが、もともと持っていた喘息が悪化して、体を一番大事にしたいなって思ったときに、「そういえば私、田舎に住みたかったんだ」って思い出して。それで移住に向けた行動をするようになったんです。

まずは沖縄に住んで、千葉に一度戻りましたが

次に和歌山県の白浜町に住みました。でもツーリングで紀宝町のある東紀州地域に来たときに、何かこっちの方が自分の思っていた田舎暮らしができる感じがして、それでこの地域に来たんです。そこで今の食堂経営にも大きく関わることになった、熊野市でアマゴ養殖をしている赤倉水産の社長と出会い、縁があってアマゴ養殖や、アマゴを使った食事を提供するお店の手伝いをさせてもらえるようになったんです。そのときは紀宝町の隣の御浜町に住んでいましたが、その後、紀宝町出身の夫と結婚して妊娠したのを機に、赤倉水産を退職して夫の実家の近くで子育てをしようと引っ越してきました。



民家を改装したおしゃれな店内



アマゴを調理する尾崎さん

地域付き合いの大切さを実感

赤倉水産を退職したときから、次は自分のお店を開いて、そこでもアマゴを提供したいなっていう思いをずっと持ちながら子育てしていました。今は、それが叶ってお店をオープンすることができましたし、家のすぐ近くには泳げる川もあってきれいな風景やその中での遊びも楽しめる、子どものときに住みたかったような場所に住めているので、本当に幸せですね。また、たくさんの自然に囲まれています、私の住んでいる相野谷という地区は保育所や小学校、中学校、診療所が、狭い地域で結構ギュッとある感じで、紀宝町の隣には和歌山県の新宮市という大きな街もあって、不便すぎない田舎に暮らせていると感じています。近くに大きいショッピングモールがあっても、それは田舎らしさがなくて嫌だし、これくらいの距離感が丁度いいですね。

こっちに来て、水や米、魚、お茶など、食がおいしいことにはびっくりしました。また、猪や鹿も出るので、ジビエを食べられるのもこちらの醍醐味です。赤倉水産の社長が狩猟してきた猪が、私が出勤してきた時に解体されていたことがあって、とても衝撃を受けたこともありましたが、そういうのも田舎暮らしの魅力ですね。(笑)

あと、移住してきて、地域の人たちとの付き合いが濃いことに新鮮さを感じました。関東に住んでいたときは、一人暮らしのアパートだと隣の人とあ



(上) kokoro 食堂ではアマゴの定食など、地元食材が存分に味わえる (右上) 店内に飾られるステンドグラスなど、地元作家によるオブジェもたくさん (右下) まき割りも子どもたちの楽しみに



いさつをしなくても別に変ったことではありませんでしたが、こっちでは違いました。特に紀宝町に住んでからは、地域の掃除には定期的に参加したり、お祭りごとみんなで協力し合っ取り組んだり。でも、そういうのに参加するからみなさんよくしてくれて、ああ田舎暮らしにはこういうのが大切なんだって思いましたね。

紀宝の魅力 これからも満喫!

目標は、この店をおばあちゃんになるまで続けていくことです。店名にも心が通い合えるような食堂にしたいという想いを込めていますが、長く続けていく中で、いろんな人とつながっていきたく、この地域の食材のよさを、料理を通じて発信していけたらなと思っています。

紀宝町に住んで

あんまり便利すぎる場所に住んでも都会に住んでいるのと変わらない感じがしますが、ここは適度に都会との距離が感じられ落ち着いた生活を送ることができます。大きなお店は少ないですが、うちの食堂みたいに個人の方がやっているカフェや雑貨屋さんなどがちょこちょこあるので、そういうお店に行くと交流するのも面白いですよ。ぜひ「kokoro 食堂」にも食べに来てください!



地元の人が気軽に集える食堂にしていきたいと、尾崎さん